

ATAC 会長就任のご挨拶

財団法人大阪科学技術センター
 ATAC 会長 齊藤 紀彦

ATAC (Advanced Technologist Activation Center) は、財団法人 大阪科学技術センターの創立30周年を記念し、中堅・中小企業振興事業の一環として、1991年4月に設立され、来年には20周年を迎えます。この節目に会長に就任いたしましたことを縁と考え、当センターおよびATACの発展の為に努力いたしたいと思っております。

ATACは名前が表す通り、考え・行動する先端的技術コンサルタント集団で、企業OBのグループによる活動が全国的な広がりを見せている中、今でも、この種の活動のモデルであり、先例であると高い評価をいただいております。現在、メンバーは豊富な経験に裏付けされた独自のノウハウを保持する民間企業の技術系OBや事業経営者・管理職OB等27名より構成されております。

活動内容は、主として中堅・中小企業において、それぞれの企業が抱える多種多様な技術や経営の課題に対応し、その企業と一体となり、豊富な知識・経験・人脈を生かし、実践的・具体的にチームを組んで課題解決に当たっております。今日までに約700件にも上るコンサルティングの契約を締結し、顧客企業の技術や事業成果につながる実績を上げております。

近年では、大型地震や新型インフルエンザなどの大災害に企業が見舞われた際に、事業を早期に復旧させるBCP(事業継続計画)に着目し、BCPに関する講演会を、パートナー機関として参画している大阪信用金庫が拠点の「だいしん地域力連携拠点(経済産業省施策)」と協力し開催するとともに、中堅・中小企業のBCP策定支援を実施しております。

また、全国の同種の機関によびかけ、「OB活用全国会議」を開催し、各機関が抱える課題等の意見交換を行うとともに、全国ネットワークの構築を進めております。

その他、立命館大学でアントレプレナー講座を実施し、「自立的で創造的な人材」、「アントレプレナーシップに満ちた人材」の養成の一助を担っております。

現在、中小企業の業況は、持ち直しの動きが



見られますが、業種・規模によってはその動きに違いがあり、デフレや円高など、先行きへのリスクがある状況です。

こうした環境の中、ATACは、高い技術への貢献と企業の社会的責任を念頭に置き、コンサルティング業務、セミナー開催・講師派遣業務、書籍刊行業務等を通じて、関西や日本の産業の基盤である中堅・中小企業の発展に資することを目的に、更なる発展に向けて邁進していく所存であります。皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

齊藤紀彦氏 略歴

- 昭和45年3月 東京大学大学院 工学系研究科 電気工学専門課程 修了
- 昭和45年4月 関西電力株式会社入社
- 平成15年6月 同社 常務取締役
- 平成17年6月 同社 取締役副社長(現職)
- 平成17年7月 (財)大阪科学技術センター会長 就任
- 平成22年5月 ATAC会長 就任

ATACでは従業員の教育訓練や研修も行っています

緊急雇用安定助成金制度による教育研修

7月1日に日銀が発表した短観は、大企業製造業で前回調査から15ポイント改善し、リーマン・ショック前の2008年6月以来2年ぶりにプラスになったと報じている。景気の持ち直し傾向が見られますがしかし、中小企業の製造業はマイナス18ポイントで大企業との景況感格差は依然大きく先行き不透明感も残っています。中堅・中小企業の経営状態は先行き不安ぬくえず、まだまだ過酷な対応に追われる状況が続いています。

そのような環境の中で従業員のリストラもせずに国の中小企業緊急雇用安定助成金制度を利用して、この機会に従業員の教育訓練を実施しながら雇用維持に努力されている事業主もおられます。

ATACは昨年から、京都府の依頼でこの制度の教育研修の講師を担当しています。本年も6月～7月にかけて実施しました。



ATAC講師による 講義の様子

ご参考までに紹介しますと「中小企業ものづくり向上講座」と名づけたもので毎週1日全5日間のシリーズで1日は午前9:00～午後4:00時まで終日同じカリキュラムで勉強することになっています。これを受講した従業員には1人1日6,000円の教育訓練費が国から企業に支給されます。

実務経験に基づいた多彩な講義

カリキュラムの内容は幅広く、多くの中小企業の従業員が参考になり且つ興味をひくような内容になっています。

一例を挙げますと、「金属材料の知識」「高分子材料の知識」「繊維材料の知識」「生産管理の知識」「品質管理・品質保証の知識」「新製品開発」「製品設計」「5S活動」「IT導入・活用」「機械製図の基礎」「機械切削加工の基礎」など多様な内容になっています。

受講者は毎回約50～100人を数え、1社で20～30人も参加している企業もあります。反面それだけ中小企業には現状仕事がないと言う実態を示しているのだと思います。

ATACの講師の講義は評判がよく好評を得

ています。何となれば講師の方々は大手企業で約30～40年それぞれ専門技術分野で実務の経験を積んできたベテランの技術者ばかりですから、工業高校や大学などの先生の講義とは異なり実践的で、すぐ現場で応用できる内容だからだと思っています。

御社へ出張研修も行います



工業研修 (提供: 京都府中小企業技術センター)

これらの実績や使用したテキストなどがございますので、上記の助成金制度とは関係なく、自社独自で教育訓練をする計画がございましたら遠慮なくご相談ください、それぞれの企業へ出前研修をいたします。なお、助成金制度の対象になる教育訓練を自社の事業所内で実施出来るケースもありますので必要とお考えの企業は関係当局にお問い合わせください。ATACには多くの専門分野の技術者がおりますので、先に紹介したカリキュラム以外の科目でも担当できます。例えば「デザイン・レビューの活用」「原価管理の基礎」[ISO規格関連]など基礎から応用レベルまで技術者、技能者の能力向上に関する研修、また専門技術のみでなく「新入社員教育」「中堅社員教育」「管理・監督者教育」などの階層別研修も可能です。ものづくり人材のパワーアップについて、それぞれの企業特有の課題やご要望があると考えられますので一度ご相談ください。(藪野記)



ATAC講師による 講義の様子



ユーザーニーズに応える確かな実績。
今日を見つめ、未来に挑む。

株式会社氷上製作所
代表取締役 足立克好

(株)氷上製作所は昭和38年7月創業以来、兵庫県丹波市の氷上工業団地にて操業しております電子機器メーカーです。

当社の事業は大手電機メーカー様よりの加工受注部門と、設計～量産製造までを請け負うEMS部門とでなっており、主にプリント基板のSMD実装・組立製造を強みとしております。主な製品としては、車載用AV機器、地デジ対応共聴機器、電動自転車用コントローラー、ハイブリッド車用モーターECU等民生機器から産業機器まで多岐に渡っています。



M S 部門で購入している電子部品や機構部品の発

ATAC様とのお付き合いは約10年程前に、現場改善指導と開発部門の技術指導でお世話になりました。以降は空白になっていたのですが、このE

注 - 入荷 - 倉庫 - 払い出しの資材管理において、昨年来より続いている電子部品の長納期化による入荷遅れ対応に日々頭を悩ませており、電子部材在庫削減も併せて、4月よりATAC様のご協力を得て生産管理システムの改善に取り組んでいます。



電子部品の長納期状態はまだまだ続くと予想されるなかで、この生産管理システムの改善により部品調達力の強化とコスト削減が当社の強みとなり、今後の営業活動の強い味方にしたいと考えております。

株式会社氷上製作所
〒669-3464 兵庫県丹波市氷上町石生1767-7
TEL 0795-82-3431(代)
FAX 0795-82-6948
URL <http://www.hikami.co.jp>

ATAC ひと言 中小企業の専門教育 ATACが指導できる専門分野シリーズ

その6 「時代の流れと共に進歩する高分子材料」

1907年高分子材料(プラスチック)が世に出て100年が過ぎ、構造材、機能材としていまや金属材料と並ぶ存在になっていますが、最近でも多くの新しい材料が登場しています。2000年に開発された植物を原料としたポリ乳酸は廃棄後土に返る生分解プラスチックとして注目されましたが今では樹脂の改良加工技術の向上により孔の径が0.2mmという蚊の針のような太さの痛くない注射針までポリ乳酸で出来る時代になってきました。これによって廃棄も簡単になり、不法投棄対策にも役立っています。

アクリル樹脂はガラスより優れた光の透過性や硬さ、耐食性等に優れた特性を生かして光学、照明、自動車関連等広く利用されていますが、最近では携帯電話をはじめモバイル機器の小型化・高機能化に対応してナノメートル精度の光学系レンズへの需要が高まっています。

また、今まで鉄(比重7.8)やアルミニウム(比重2.7)等で出来ていた動力伝達

用プーリーを熱硬化性のフェノール樹脂(比重1.8)に変更することで大幅な軽量化ができ、次世代電気自動車用に期待が寄せられています。

ごく最近、産学官協同研究で鉄より丈夫なプラスチックが開発されたと報じられました。ポリプロピレンの製法を改良したもので、鋼板の強度の2~5倍の強さがあり、自動車の鋼板の代替材としての応用が期待されています。このほか、高強度の炭素繊維を使ったプラスチック複合材はレジャー用品から航空機へと用途を拡大してきていますが、このほど鋼板の10倍の強度、重さ4分の1の軽さになるものが開発され電気自動車への取り組みが進むと思われます。

専門教育シリーズでは、高分子の汎用材料から機能材料まで基礎知識を習得していただくと同時に、上記のような新しい用途を知っていただき今後の開発に役立ててもらおうと考えています。(明石記)



“カップヌードルをぶつつぶせ！”

安藤宏基 著 2009年10月刊 中央公論新社 1500円+税

この本は、発刊以来、申し込みが殺到してなかなか本屋にはなく、発行所にも在庫がない時期が続きやっと手に入れることができた。

日本人で日清食品のカップヌードルを知らない人はまず居ないだろう。これこそ日本が誇る世界に示した発明品で、いまや世界で親しまれているインスタント食品だ。南極基地やアラスカの石油掘削基地の建設現場でも愛用されている。

著者は日清食品(現日清ホールディングス株式会社)のCEOで、カップヌードルの発明者としても有名な創業者の安藤百福のご子息として当社を引き継いだ2代目である。

この本の表紙の「帯」と呼ばれるところに、堺屋太一さんが「二代目には創業者の偉さは分かる。創業者には二代目の苦勞は分からない。二代目こそ、強靱で大胆でなければならない」とあるのも頷ける。

確かに私は優れた創業者を何人も見てきた。そしてそれを受け継いで苦勞して頑張っておられる2代目も何人も存じ上げている。この本を読むと“全くそうだ！”と膝を叩いて共感するところが多い。

創業者の偉大さ、そして迫力、創業者の継承に対する不安と苦悩、創業者とそれを受け継ぐ2代目の確執などが目に見えるように浮かんでくる。

本書は、カップヌードルの偉大さに寄りかかることなく、そこから脱却して次のヒットを狙って苦闘する2代目の姿が行間から浮かんでくる。

わが国のみならず、世界を見渡しても、事業の継承を成功させ、永年にわたって事業を成功させている企業は、その大部分がファミリー企業であることを知れば本書から得られる教訓は大きい。

もう一つ面白いのは、この本には裏表紙のところに著者“安藤宏基の広告作法”と題したCDが付属についていて、思い出深い親しまれたテレビコマーシャルと著者や制作したクリエイターの談話がまた秀逸。(梶原記)



ATAC活動の内容 PR

ATACは長年の経験により培った独自の技術とノウハウを、中堅・中小企業の方々が抱えられるモノづくり、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援し、発展に資することを目的としています。

1. コンサルティング

中堅・中小企業の皆様がお悩みのさまざまなテーマについて、コンサルティングを行います。

- ・モノづくり(合理化・5S・品質改善・新製品の開発)
- ・生産管理システムの構築
- ・事業継続計画(BCP)作成支援
- ・公的資金の導入支援

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。講演会・研修会へ講師派遣も行ないます。

- ・フレッシュマンパワーアップ研修(3日間)
- ・管理職~中堅社員の社内研修(内容・必要日数は相談に応じます。)
- ・社長懇話会

3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする(中堅・中小企業の業務改善例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集(1)~(6)
- ・目からウロコのアドバイス ~中小企業経営者への提言~

4. 産学連携のお手伝い

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

相談無料

まずは、ご連絡下さい

(財)大阪科学技術センター
技術・情報振興部
ATAC事務局

Tel [06-6443-5323](tel:06-6443-5323)

Email atac@ostec.or.jp

URL <http://www.atac.ne.jp>

ATACニュース、Webに関するご意見、ご要望なども、どしどしお寄せ下さい。

編集後記

今号もATACの最近の動きに沿った記事を主体に編集しました。

ATAC会長の交代に伴う新会長からの皆様へのご挨拶と並んで、最近増加傾向にある企業を対象とした講演会や研修会への取組みを取り上げました。

書評に取り上げた「カップヌードルをぶつつぶせ！」は特にオーナー経営者の皆様にきっと有益な助言を与えてくれる本だと信じています。(池田(隆)記)